

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助演習Ⅴ(卒業研究) Seminar of Social Work Ⅴ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修)	相談援助実習Ⅱ修了者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
吉田 志保・大熊 信成・中島 佳子	福祉棟	月・火・水・木・金の9時から16時 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助実習の意義を理解し、相談援助実習を通して、大学で学んだ知識・技術などを具体的かつ实际的に理解できるよう学習を進めていく。この授業では、実習の振り返り、実習報告書の作成・発表やスーパービジョンが中心となる。				
授業の目標				
①福祉に関する相談援助の専門職としての自覚をもつことができるようにする。 ②専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題を理解し、説明できるようにする。 ③相談援助活動について総合的・客観的に対応できる能力を培うことができるようにする。				
授業の方法				
基本的に演習形式で授業を行う。必要に応じて講義も取り入れる。実習の振り返りを通して、実習報告書を作成し、学内実習報告会で発表する。				
学習の成果(学習成果)				
①専門職としての自覚を持ち、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題を明確にすることができ、習得することができる。 ②ソーシャルワーカーとして、様々な場面に対応できる能力を持つことができ、それを実践することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスに沿って授業のねらいと進め方、成績評価等)・自己評価表の記入【大熊・吉田・中島】			
第2回目	実習の振り返り：実習記録の見直し、実習報告書の書き方【吉田】			
第3回目	実習の振り返り：実習報告会の企画・プレゼンテーションの方法【吉田】			
第4回目	実習の振り返り：グループ討議①ブレインストーミング【大熊】			
第5回目	実習の振り返り：グループ討議②ブレインストーミング【大熊】			
第6回目	ポスター作製 グループ討議③特性要因図制作【大熊】			

第7回目	ポスター作製 グループ討議④特性要因図発表【大熊】	
第8回目	実習の振り返り：グループスーパービジョン、（プレゼンテーション資料の提出・報告）【吉田】	
第9回目	グループスーパービジョン【吉田】	
第10回目	グループスーパービジョン【吉田】	
第11回目	ピアスーパービジョン【吉田】	
第12回目	実習報告会リハーサル【吉田】	
第13回目	実習報告会 パワーポイントを用いて学内実習報告報告会を行う。【吉田・中島・大熊】	
第14回目	実習報告会の振り返り・実習報告書の提出【吉田】	
第15回目	実習の評価・全体総括【吉田】	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。
レポート		
調査報告書	20%	Ⅱ期実習報告書の内容を評価する。評価Sは、実習テーマにもとづいた実習プログラムの実施、学び得たこと、振り返りをまとめ考察されていること。
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	60%	特性要因図発表30%（積極的な参加。自分の担当箇所に責任を持つこと。）実習報告30%（実習を振り返り、自己覚知がなされている。レジュメを作成し、根拠(エビデンス)に基づき発表している)
その他		
教科書と参考図書		
実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用したテキストを使用する。他 授業中に指示する。		
履修上の留意点・ルール		
<p>●実務経験大熊（職種：社会福祉士（児童指導員・生活指導員、障害児・者に係わる業務） 職歴：通算6年）</p> <p>●実務経験吉田（職種：社会福祉士（生活相談員）、介護支援専門員（ケアマネジメント） 職歴：通算4年1ヶ月）</p> <p>グループ発表や個人発表を行うので、学生の積極的な参加を望みます。他の学生の課題発表は積極的に聞くこと。私語、遅刻、早退は厳禁。</p>		